

ブルーフレグランスの長日処理開始時期

ブルーフレグランスの促成栽培に適した長日処理開始時期は定植後30日以降である

背景・目的

- ブルーフレグランスの促成栽培における長日処理については、適切な処理開始時期が不明なため現地においてはさまざまな対応がなされていました。
- そこで、ブルーフレグランスの促成栽培において適した長日処理開始時期について検討しました。

成果の内容

- 開花は長日処理開始が早いほど早くなります。
- 収穫本数は長日処理開始が遅いほど増加する傾向にありますが、定植30日後と定植45日後には差はありません。
- 切り花形質については、茎径は長日処理開始時期の影響を受けませんが、他の形質は定植後15日以降で長日処理が遅いほど優れます

表1 萌芽数、切り花本数および出荷本数^z

試験区	萌芽数 ^y (本/株)	切り花本数 (本/株)	出荷本数 (本/株)
定植時区	1.9 bc ^x	12 bc	11 bc
定植15日後区	2.7 ac	16 ac	15 ac
定植30日後区	3.3 a	17 a	16 a
定植45日後区	2.9 a	18 a	17 a

^z 2022年3月31日まで調査した

^y 調査日10月21日

^x 異なる符号間にはTukey-Kramer法で5%水準で有意差あり

表2 1番花の平均開花日、到花日数および切り花形質

試験区	平均開花日 (月日)	到花日数 (日)	切花長 (cm)	茎径 (mm)	着花節位 (節)	花房数 (個)	連続着花節数 (節)
定植時区	11月15日	53 ± 9 ^z c ^y	100.3 ± 14.5 c	3.4 ± 0.4 a	16.6 ± 6.7 ac	5.3 ± 2.1 b	2.0 ± 0.6 c
定植15日後区	11月18日	56 ± 5 c	104.1 ± 17.0 c	3.6 ± 0.4 a	16.4 ± 5.8 bc	6.5 ± 1.9 ab	2.2 ± 1.1 c
定植30日後区	12月10日	78 ± 2 b	127.9 ± 18.3 b	3.6 ± 0.4 a	20.3 ± 8.9 ac	7.3 ± 1.6 a	3.4 ± 0.8 b
定植45日後区	12月20日	87 ± 2 a	147.7 ± 10.1 a	3.6 ± 0.4 a	23.8 ± 4.0 a	8.3 ± 1.2 a	4.3 ± 0.9 a

^z 平均値±標準偏差

^y 異なる符号間にはTukey-Kramer法で5%水準で有意差あり

成果の活用方法(又は期待される効果)

- 定植後30日以降に長日処理を開始すると、萌芽数が増え、収量が増し、品質が優れた切り花が収穫できます。

技術開発前



定植後開始区

技術開発後



定植30日後開始区

- 普及対象地域・面積 中部地区・70a

留意点

- この技術については、ブルーフレグランスの開花促進効果が確認されている光源を用いて利用してください。
- ブルーフレグランスの開花に効果のある光源の波長については今後明らかにする予定です。

関連研究成果カード：2022年前期 番号11

関連事業名：マーケットアウトに対応した新品目の安定生産技術開発(県単)

研究期間：令和1年～3年